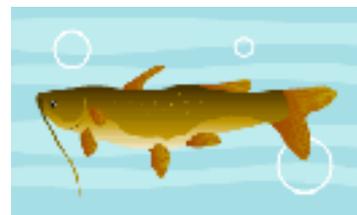


大池ナマズの指南書（その2）



危機や災害に対応できる能力を、日ごろ鍛えていますか？

まずは一般レベル。

- ・ ホテルや旅館に泊まる際、扉の裏側に貼られた避難経路を確認している。
- ・ 飛行機の離陸後に放映される酸素マスクのビデオは、きちんと見ている。

次に、上級レベル。

- ・ 電車に乗るときは後方車両に。余裕で席に座れるときは、背中を進行方向に向けて。
- ・ 帰宅不能に陥ったときに備え、かばんの中には常に飴やチョコを入れてある。
- ・ レストランや映画館、小さい場所だとエレベーター。陣取る位置は適度に入り口に近い場所。

地震に遭遇するのが在宅時とは限りません。安売りで品物を積み上げた量販店や歌舞伎町のビルなど、死者を出した火災は記憶に新しいところですが、その時に偶然とっていたポジションがその人の運命を左右する、ということが事故後の調査で明らかにされたりします。

危ない所に近づくなという意味で、あえて街中を地震の目で眺めると……。

まず、昭和 56 年以降の新しい建物は、そう簡単に倒壊しないことが神戸の震災で証明されています。これらの建物内にいるときは、そう心配する必要はありません。

最近よく見かける超高層の建物も安全です。積み木を高く積むと倒れやすくなる体験から、高い建物は地震に弱いと思われがちですが、階によってはあまり揺れない場合もあります。釣竿を手元でプルプルと震わせた動きといえば、想像しやすいでしょうか。

古い鉄筋コンクリートの建物だと、階段室や給湯室、トイレや物置など小部屋で壁の多い場所が安全です。大抵は構造コアと呼ばれ、ビル全体の背骨の役割を担っています。

反対に一番危ない場所は、高層アパートやビルなどの1階で、ピロティーと呼ばれる部分です。通常、人や車が通り抜けられるように壁を少なく柱だけで開放的になっています。グシャッと階ごとつぶれる「層崩壊」という被害が、過去に多くの人命を奪いました。



層崩壊で1階がつぶれた被害